

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書	
令和 8 年 7 月 15 日	
岩手県知事 達増 拓也 殿	
提出者	
住 所 岩手県一関市藤沢町黄海字町裏63-1	
氏 名 （株）バブコック・スワイン・ジャパン	
代表取締役 並木雄太	
電話番号 0191-63-3600	
産業廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	(株) バブコック・スワイン・ジャパン
事業場の所在地	岩手県一関市藤沢町黄海字町裏63-1
計画期間	令和8年4月1日～令和9年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	養豚業
② 事業の規模	850,000,000円
③ 従業員数	26名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	汚泥 → 自己中間処理（脱水） → （株）若葉に委託処分 → 発酵促進（堆肥化） → 肥料として販売

（日本産業規格 A 列4番）



(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

社長（廃棄物管理責任者）



農場長（廃棄物処理等責任者）



廃棄物担当者

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和7年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動物の糞尿	
	排出量	7,182 t	t
	（これまでに実施した取組） 餌こぼれの防止を徹底し、不要な汚泥の発生量を抑える		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動物の糞尿	
	排出量	6,900 t	t
	（今後実施する予定の取組） 飲水器の圧力調整、パッキンの定期交換、破損の早期発見を徹底し、不要な水がピットに入らないようにする。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和7年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動物の糞尿	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動物の糞尿	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和7年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動物の糞尿	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	5,985 t	t
	(これまでに実施した取組) ポリマー凝集剤等の活用による脱水効率の改善		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動物の糞尿	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	5,750 t	t
	(今後実施する予定の取組) 固液分離機のスクリーンの定期清掃・点検を実施し、分離効率を維持することで、汚泥発生量を抑制する。		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和 7 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動物の糞尿	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動物の糞尿	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和 7 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動物の糞尿	
	全処理委託量	1,197 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	1,197 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類_	動物の糞尿	
	全処理委託量_	1,150 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	1,150 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			